

2025 年度日本国際保険学校（ISJ）上級コースを開催しました

一般社団法人 日本損害保険協会（会長：城田 宏明）では、日本国際保険学校（ISJ）について、2025 年度の上級コースは「レジリエントで持続可能な損害保険事業を行うための戦略の策定」をテーマに、オンライン 1 週間（5 月 28 日～6 月 3 日）と対面 1 週間（6 月 11 日～6 月 17 日）を効果的に組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。

上級コースは、幹部候補人材を主な対象とし、ワークショップ形式を中心に本邦損害保険業界における各種戦略等を学ぶことを目的としています。本コースでは、東京海上ホールディングス株式会社本社での課外講義や参加者同士で議論を行う機会等も設定のうえ、東アジア 14 地域の損害保険会社や保険監督官庁等から 27 名を参加者として迎えました。

オンラインでの開講式にて、損保協会の宇田川智弘常務理事が主催者を代表して挨拶を行い、「日本の損害保険業界に関する座学に加え、参加者同士での取り組みの共有、意見交換、論議等を通じて、東アジア各地域における損害保険業界をリードする持続可能な成長戦略の策定に応用していただきたい」と期待を寄せました。

対面での開講式では、同協会の久保大知専務理事が主催者を代表して歓迎の挨拶を行い、参加者に対して「損害保険市場を取り巻く環境が急速に変化する状況を踏まえ、様々な不確実な事象に対する脆弱性の低減と被害の軽減は、国際社会が直面する最重要課題の一つである」と述べ、安心・安全の提供という損害保険の社会的役割に加え、防災・減災への取り組みがますます重要になってきていることを強調しました。

講師各位には、メインテーマに沿った講義を実施いただき、多くの講義で参加者から寄せられた質の高い質問に対して、的確かつ丁寧な質疑応答を行っていただくことで、各講義への参加者のより深い理解を促すことにつながりました。

参加者からは「日本や東アジア各地域における損害保険に関する貴重な知見に触れながら、多くの議論を重ねた経験を通して、自地域の業界や所属組織がレジリエンスを強化し、様々な不確実な事象に対応するための新たな気づきを共有することができた」「本コースで得られた学びを各地域に応用していき、ここで築かれた友情をこれからも大切にしていきたい」との声が寄せられ、東アジア各地域の損害保険業界のより良い未来につながる学びの場として、また、地域の垣根を超えたネットワークを構築する場として、有意義なプログラムとなりました。



最終日の修了式

日本国際保険学校（ISJ：Insurance School (non-life) of Japan）

- 国連貿易開発会議（UNCTAD：United Nations Conference on Trade and Development）の勧告および東アジア保険会議（EAIC：East Asian Insurance Congress）の要請を受け、東アジア地域の損害保険業界に対して行う海外技術援助研修プログラム。
- 1972 年に一般コース、1991 年に上級コースを開講し、これまでに一般・上級コースでのべ 2,375 名以上の卒業生を輩出している。